

マルチエンディング

[調べる]ベッド(5回目)

「……なんだか眠くなってきた。」

さくらは無意識にも布団に入ってしまった。

3-1)「……お腹すいた。」

そう思いつつも、動いてる事すら嫌気がさしていたさくらは、夢の中へと逃げていった…。

3-2)「…なんで、お菓子を探すのにこんなに歩き回ってたんだろ…。」

さくらは、さっきまでの自分の行動を恨みながら、眠りについてしまった。

……

「…!!!」「…!!!」

(間を置いて)

誰かが自分の名前を呼んだ気がしたが、何もかも嫌になったさくらは無視してしまった…。

3-3)「ばあちゃんごめん。やっぱり無理……」

外の恐怖には勝てなかったさくらは、祖母に申し訳ない気持ちもありながらも、眠りについてしまった。

(間を置いて)

…どこからか懐かしい声が聞こえてきた。

「さくら、相当つらい思いをして今まで過ごしてきたんだね。大丈夫、気持ちはすぐには変わらないよ。少しずつ、外に出れる勇気を持ってね。ばあちゃん、さくらがいつか笑顔になってくれる事を信じているよ。」

…やがて声は聞こえなかった。

…さくらの目には無意識に涙を流していた…。

2)エンディングまでは、1)と同じ通りに進む。

(画面は真っ暗)

.....

「ばあちゃん。あそぼう。」

「ふふ。じゃあ、今日は何をして遊ぼうか。」

「じゃあ、……トランプで!」

「いいね!じゃあ、ばあちゃんがカード切るから。」

「わーい。」

(4秒くらい間を置く)(上と下では別の場面)

「ばあちゃん。どうしたの。あせだくだよ。」

「はあ…はあ…だ、大丈夫。で、何しにきたの。」

「きょうもあそぼう!」

「さくら…、他に遊んでくれる人はいないの。」

「だってがっこうにいてもみんながすきになれないし…。とうさんよるまでかえってこないし、かあさんにいったらきげんがわるくなるし…。」

「さくら、そんな心じゃばあちゃん悲しいよ。お父さんはお母さんは忙しいから一緒に遊べないかもしれない。でも友達は、あなたから行かないとなってくれないよ。あなたももう小学一年生なんだから、自分から進んでいきなさい。」

「うーん、でも……」

「さくら……」

(4秒くらい間を置く)(上と下では別の場面)

「さくら、きぼうをもっていきなさい。それがばあちゃんと のさいごのやくそくだよ。」……。

(祖母の心理描写→)(これで……よしと。あとこれを金庫の中に…。で…、ダイヤルを調整して…と。)(2秒くらい間を置く。)

(さくら、ごめんね。これがばあちゃんとの最後の遊びだよ。そして…、さくらが笑顔で生きてくれる事を祈っているよ。入院しても、そしてこれからも…。)

(○のカギが映し出される。)

4)(実現可能な場合)「(2 時間経過)はあ、はあ。なんで食糧探すのに。こんな事しないといけないんだよ!!。」

(画面が暗くなる)

さくらは何もかもいやになり、布団にもぐって寝てしまった。まるで、現実世界から少しでも離れるように…。

(少し間を置く)

どこからか悲しい声が聞こえてきた。

「さ…ら、に…ちゃ…め…，…げ……だ……」

しかし…声はもはや、さくらには届かなかった…。

5)金庫が開いた!!。

(画面が白くなる)(7秒間を置く)(画面が白い状態で続く。)

「ええええー。どうしてこのパスワードを知っているんですかー。ノーヒントだし、適当に思いついたパスワードだったのに…。もしかして、作った人からそう入力するように言われましたか?。(これまたまならすごいけど…)まあ、いいや。折角このパスワードを入力出来たあなたに、ばらしちゃいましょう。このゲームでは部屋を脱出したらこれで終了でしたが、本来はこの後も第2章、3章と続いていく予定でした。忙しい中でゲーム作成していったので、ここまでしか出来ませんでした…。そこで今回は、この後実装予定だった章のあらすじ、そして主人公『さくら』に待ち受ける運命についてここで解説していきたいと思います。なお、この先の話はあくまで『もしも』の世界です。もしかしたらゲーム本編に関してのイメージを大きく変えてしまう可能性もございます。「まだ、最後までプレイしておらず、ネタバレを避けたい。」「いろいろ秘密がありそうだけど、今の『さくら』のままでいい。」とお思いのかたは、次の選択肢で「いいえ」をおしてください。少し時間を巻き戻してこのパスワードを開ける前に戻します。なお、「はい」を押すとシナリオには戻れませんのでお気をつけ下さい。」

「…続き、聞きますか?」

「いいえ」…わかりました。では、引き続き、ゲーム本編を御楽しみください。プレイしていただきありがとうございます。

(画面が戻る)(主人公金庫前)

「はい」…そうですか。では、「さくら」が本来なら待ち受ける事になっていた運命について、長くなりますが、全てお話ししたいと思います。

ゲーム本編では主人公「さくら」には、ハッピーエンドのような感じで終わっていましたが、画面が暗くなり、最後に次のメッセージを入れる予定でした。

しかし運命は非常で、次の闇が迫っている事をさくらはまだ気づいていなかった。

「社会の闇」との対決は、まだ終わりを告げる事は無い。

さくらはその迫り来る闇の中で希望を見つける事が出来るのだろうか。

…で終わる予定でした。(この時はまだ「さくら」という名前が付いていませんでしたが…)。「社会の闇」というタイトルも、「引きこもり」というテーマだけでなく、「いじめ」・「虐待」についてもテーマとして取り上げる予定でした。それでもって、第2章のテーマは「いじめ」になります。さくらが引きこもりになった理由の1つには「学校」がありました。それは、同級生からの行き過ぎたいじめでした。しかも、いじめを行う同級生のリーダー格のメンバーたちは、権力の高い親を持ち、学校に圧力をかけていてさくらにやりたい放題でした。第1章で自信をもって学校に行ったさくら、いじめには負けないという意思を持っていました。しかし、待っていたのはエスカレートした同級生の手荒い歓迎でした。さくらは下校途中に背後から気絶させられ、目が覚めると暗い教室の掃除用具入れでした。その暗い校舎の中全体が、第2章の舞台となります。第1章より規模の大きい舞台で、さくらは同級生の仕込んだ罠が多くしかけられたこの校舎から脱出を計ります。ここでは理科室・図書館といった様々な部屋での仕掛けを考える予定でした。そして、その後校舎脱出後に、校庭で待ち構えていた怒った同級生達に襲われそうになりますが、間一髪でパトロール中の警備員が見つけた為に、さくらは助かります。そして、突然の出来事だったため、圧力をかける前に新聞にこの事件がのってしまう。権力者の子がおこした事件として逆に立場が悪くなってしまうという事態になり、メンバーを含めて、さくらに対する「いじめ」はしなくなったというのが第2章のエンディングです。

さて、第1章、第2章と終わりには一時的なハッピーエンドがございましたが、第3章だけは「(主人公が)救われない展開」にするつもりでした。スタート地点はある雨の日の下校途中。突然、鋭い形相の女に襲われそうになります。そして、そこでさくらはその女が、病院から抜け出した自分の母親である事に気づきます。そう、第3章のテーマは「虐待」。そして、相手はさくらにかつて暴力をふるった「母親」です。大雨の中、偶然なのかだれも人の姿が見えない町の外が舞台です。ここで一部のイベントを除き、母親に見つかり、ゲームオーバーになるという設定になっていました。ちなみに母親が近づいているのは足音がし、大きい程、近いという緊迫した展開でした。実装出来るかは不明でしたが……。ここは、謎解きではなく地図と足音に気をつけてある場所にた

どり着く事が目的です。最初は家にたどり着きますが、家は母親によって荒らされていました。そこに母親が再び現れて、さくらは再び外に逃げ込みます。ここからどのようにして目的地に行かせるかはまだ決めてはいませんでした。最後の目的地は電車の踏切にしました。ここでついにさくらは母親に捕まります。絶体絶命の中鳴り響いたのは、踏切の音。実は、ここで父親が踏切で倒れた人を助けようとして電車に引かれて死んだという事をさくらは思い出しました。そして、母親も何か気付き、もがき苦しみました。そして突然道を走り出しましたが、そこに急に現れたトラックに母親が引かれてしまいます。唐突な出来事にさくらは放心状態、ここでやっと通りかかった人々によって救急車を呼んだりとかしていましたが、さくらには鳴り響く踏切の音しか聞こえていませんでした。母親は命だけはとりとめましたが、「再帰不能」という診断がされました。さくらも半ば強引な形で施設に入るという事になりました。その日の夜、包帯を巻いた状態でベッドで横になりつつ、窓から見た夜空を見ながら、こうつぶやきます。「ばあちゃん。希望があれば良い事があるんだよね…」と。

これで救われない第3章が終わります。そしてそこから最終章に突入します。最終章は、第3章の最後でさくらは寝た後の夢の世界です。ここは非現実的な部分ですね。ここで彼女は不思議な空間を舞台に彼女は忘れていた本当の笑顔と、気持ちを取り戻しにいきます。第1章の頭を使った謎解き、第2章の各場所の探索、第3章の迷路のような道と、今までの章を複合したような仕掛けにするつもりでした。結局、どのような仕掛けにするかは決めてはいなかったのですが…。全ての謎を解いた後、さくらは白い光を見つけます。そして、よく見るとそれは今のさくらが見せないような明るい笑顔を見せる自分自身の姿でした。手を差し伸べてきたその光に、さくらも手をのばします。そして、画面全体が光に覆われます。

翌朝、学校の生徒達が見たもの、それは心も体も大きな傷をおったはずのさくらが見せるはずの無い明るい笑顔とともに登校してくる姿でありました。もはや彼女にどこか悲しかったかつての少女の顔はありませんでした。どんなに辛い事があっても、生きていく。さくらは絶望の中で希望を取り戻す事が出来た。そして、優しい光が彼女を、そして町を照らしていた…。

…以上で、「社会の闇」の本来実装予定だった展開でした。いざ、これを聞いて、さくらに対する印象が大きく変わった人もいるでしょう。中には「あそこで終わってよかった」と思う人もいるかもしれません。第2章以降は、プログラマ

一には話し手はおらず、今伝えた事は全て脚本個人が考えた事です。第3章の母親も結局助からず、なんかわだかまりが残りそうな人がいると思いますが、そこはもし制作していた場合、大きなツッコミがあったかもしれません。一応、最後まで予定通りに制作出来なかったのは残念でしたが、今思うと第1章で終わったほうが彼女にとってまだ良かったのかなという所もございますが…。

それでは、最後までこのお話をお聞きいただき、そしてこのゲームをプレイして下さってありがとうございます。

(タイトル画面へ戻る。)